

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	次世代グローバルワークショップ
<b>代表者名</b>	安里和晃・落合恵美子
<b>事業概要 (600 字程度)</b>	次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・PD 研究員等）と国際連携大学の教員が一同に会して開催するもので、世界から集まった同世代の院生や若手研究者の前で、英語で自分の研究成果を発表し、世界の第一線の研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果を狙ったものである。国際会議での報告のみならず、司会など運営の経験も積み、さらに英文での論文執筆力を涵養し、ジャーナル投稿への橋渡しとなる重要な機会である。これまで、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、「国境を越えたクラスメートをつくる」ことを謳い文句に、2008 年から年に 1 度開催し、2013 年からその活動を KUASU が引き継いでいる。今回は 10 回目となり、ジョイントディグリーに合わせた開催とする。
<b>成果の概要 (800 字程度)</b>	世界から集まった同世代の院生や若手研究者が一堂に会し、20 のプレゼンテーションが英語で実施された。ハイデルベルク大学、国立台湾大学、復旦大学などからアドバイザーの研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果が期待され、実際に参加者のフィードバックでは大きな効果が得られたとの意見が聞かれた。こうした経験をもとに Proceedings を作成し、HP に掲載した。これにより英語の業績が報告と論文執筆の 2 つの業績を上げることができた者が多かった。また次世代 WS の参加者からは、フィードバックをいただいております、以下のような意見が聞かれた。The interdisciplinary nature of the conference also provided a space for conversation and dialogue for existing and new methodological and theoretical approaches、The feedback and comments from the audience were also very constructive and helped me to reflect my approach and to think about a better way to define my research. といった評価が挙げられた。改善点としては、the schedule of the sessions was rather tight. I would have hoped for more time for discussion after each presentation などが指摘された。ワークショップの経験は、一人前の研究者として、国際会議での本格的な報告に向けての第一歩になることが期待される。